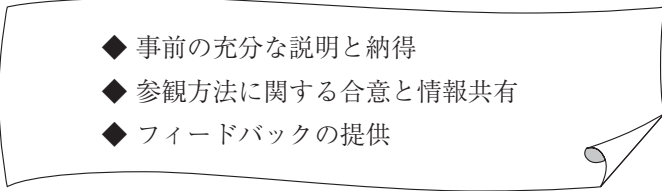


やってよかったと思える授業参観にするために

授業参観を運営するにあたっては、参観者にとってはもちろん、授業参観を受け入れてくださる教員にとっても、他では得られないような利点がある取組みにしたいと常々考えてきました。

ただでさえ忙しい教員のみなさんに、授業参観とその後のディスカッションにご協力をいただくわけですから、「もう来年からは来ないでくれ」と思われてしまうような、やっかいな活動にはしたくない。少なくとも「これだったら、やってもいいかな」と思ってもらい、一度ご協力いただいた教員のみなさんには、その後も継続して授業参観を受け入れて欲しい。そのためには、どうしたらよいのか、コーディネーターとして何ができるのか。私たちが導き出した答えは、次の3つのポイントです。

- 
- ◆ 事前の十分な説明と納得
 - ◆ 参観方法に関する合意と情報共有
 - ◆ フィードバックの提供

事前の十分な説明と納得

まず、この授業参観が若手教員育成のための活動であることを事前にしっかりと説明することが重要です。教員の教育力について評定したり、どこか他の部署からの密命を受けて、授業の善し悪しを診断したりするために行うのではないかと、という疑念をもたれるようなことがあってはいけません。大学教員準備プログラム、新任教員プログラムの一環として、これからの大学を担っていく若手教員の学びの機会の提供にご協力いただきたい、ということを丁寧に説明し、賛同を得ることが大事だと考えています。

参観方法に関する合意と情報共有

参観者にどのように授業を見てほしいか、ということについては、それぞれの教員が異なるニーズを持っています。また、講義形式の授業と語学のグループワーク中心の授業では、参観者の参与の仕方も異なります。したがって、事前に打合せの機会を持ち、どのように参観してほしいか、どのように授業に関わって欲しいかについて、授業者である教員と打合せをし、その内容をしっかりと参観者と共有することを大切にしています。

フィードバックの提供

我々の取組みにおいては、授業参観後のディスカッションとリフレクティブジャーナルの執筆による教員へのフィードバックを大切にしています。単に参観して終わり、ではなく、ディスカッションを通して教員の意図や工夫について聞き取ること、参観していて気付いたことを教員に伝えること、これらディスカッションでの気づきも含めてリフレクティブジャーナルをまとめ、教員にも提供する、といった一連の活動を丁寧に行うことを意識しています。

リフレクティブジャーナルには、ディスカッション時にうまく言葉にできなかったこと、他の参観者の質問に刺激されてさらに深まった考えなども記述されることから、これを読む教員にとっても、新たな気づきを得る機会になると好評です。

以前、どうしても授業後のディスカッションの時間が取れず、代替手段として、参観者からの質問にメールで答えていただく、という方法をとったことがありました。対面ではなごやかに応答できるような素朴な質問も、文字だけの簡素なメール文では、あまりいい印象が伝わらなかったようで、回答いただけず、その後の授業参観も破談になってしまったことがありました。この経験から、必ず授業後に対面でディスカッションの時間がとれる日程で参観を行うことを必須の条件としています。

加えて、ごく当たり前のことではありますが、忙しい中、授業参観にご協力いただいていることへの感謝の気持ちをお伝えすることも大切で

す。これはコーディネーターがとやかく言わなくても、ディスカッションやリフレクティブジャーナル上において、参観者から自然に尊敬の念や謝意として表出するものではあるのですが、授業を公開してくださる教員のみなさんの理解があってこそ成り立つ取組みであるということも忘れずにいようと思っています。

コラム④ 豪州における peer review of teaching

豪州メルボルン大学の Melbourne Center for the Study of Higher Education では、2007-2008年に Australian Learning and Teaching Council の支援を受けて、高等教育機関における同僚間による授業参観 (Peer review of teaching) を行うためのハンドブックを作成し、公開しています。授業参観のためのフレームワーク、組織的な取り組みとして展開するための方略、ガイド、書式など、豊富なりソースが提供されています。

Peer review of teaching in Australian higher education: A handbook to support institutions in developing and embedding effective policies and practices: <http://melbourne-cshe.unimelb.edu.au/research/teaching/peer-review>

また、同センターが提供している教員向けのセミナーやコースのための教材として、2011年に同僚間による授業参観のガイドを公開しています。

Collegial feedback on teaching: A guide to peer review: http://melbourne-cshe.unimelb.edu.au/_data/assets/pdf_file/0011/1761266/Peer_review_guide_web.pdf

上記のガイドでは、同僚間での授業参観(ピアレビュー)を行う際の目的、留意点が次のように紹介されています。

- ピアレビューの目的はフィードバックの提供である
- 自身の教え方をふり返り、学ぶために、他者の授業を参観する
- 参観者 (Reviewers) は、尊敬と同僚性の精神でその役割を果たし、常にプロフェッショナルとして思いやりのある態度で臨む
- 基本的に、参観者は静かに観察を行う。授業中に学生に話しかけたり、学習活動に参加したり、教材に関して意見を述べたりはしない
- 参観前の事前打合せで得られた合意は、所定の書式に記録され遵守される
- ピアレビューに関して作成されたレポートやメモは、授業者の許可なく第三者に提供することはしない

また、このガイドでは、フィードバックの枠組みとして、授業参観時の視点を次のように紹介しています。

- [1] 情熱を示し、好奇心をかきたてているか
〈学生の反応について〉
- 学生の興味関心のレベルはどの程度か
 - 学生をひきつけるしかけはあったか
 - 学生が興味を失ってしまうような点はあったか
- 〈自身の経験について〉
- 刺激を受けたか
 - 特によいと思ったところはあるか
 - あまりひきつけられなかったところはあるか
- 〈観察された方略について〉
- 学生の注意をひき、継続させるためにどんな手法が用いられていたか
- [2] 効果的なコミュニケーション
〈情報提示の方法、人間関係のスキルについて〉
- 特に印象的だったところはあるか
 - よりよくできるところはどんなところか
- [3] 批判的思考と学習の促進
- 批判的思考を促進する手法として何が用いられていたか
 - 学生をひきつけるため、参加させるための手法として何が用いられていたか
 - 学生による理解を確認するための手法として何が用いられていたか
- [4] 授業の構造
〈構成〉
- 目的にかなう手法がとられていたか
 - 授業はどのように開始されたか
 - 進度や時間配分は適切だったか
 - 授業の結びはどのように行われたか
- 〈明確性〉
- 資料や教材はどの程度効果的に使用されたか
 - 情報提示や資料は聞き取りやすく見やすいものだったか
- [5] その他の評価項目
- 特にフィードバックを求める項目を自由に設定する

本ブックレットでご紹介している東北大学での取組みにおいても、開発段階ではこれらのリソースを参考にし、状況に合わせてアレンジして用いています。